

交流会

大会1日目の夜は、ホテル日航大分オアシスタワーにて“交流会”が開かれました。特命班VOICEによる『#あつプロ』の結果発表が行われたり、来年度の全国大会開催地三重県から忍者MSW. がやってきて開催告知をしてくれました～！！



かはら版 全国大会 特集号 感謝



第72回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会
第44回日本医療社会事業学会（大分大会）

閉会式

閉会式では、脇坂大会長、今尾実行委員長から参加していただいたことへの感謝の気持ちが述べられました。全国大会大分大会が大成功のもとに幕を閉じることができ、MSWの仲間たちへの感謝の気持ちで胸が熱くなりました。

若手2人が閉会式の総合司会を務めました！！



太陽の日差しを強く感じるようになった初夏、大会2日間の天気予報は雨予想でしたが、皆様の熱気がそれを吹き飛ばしてくれたのか、雨も降らず無事に全国大会は大成功で幕を閉じることができました。

改めまして全国大会（大分大会）にご参加下さいました皆様、さらには大会運営、広告協賛、クラウドファンディングにお力添えを頂きました全ての皆様へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

13年ぶりに大分で開催した全国大会は『近未来型のMSWを追う～新時代のエントランスに立って～』という大会テーマのもと、素晴らしい講師陣にも恵まれ、大分にしかできない記憶に残る大会になったと自負しています。それも今尾実行委員長を中心に約80名の実行委員・運営委員の努力があってこそでした。九州大会・全国大会と続いた2つの試練は、準備段階において苦難もありましたが、辿り着いた“頂”から見た景色に感動と達成感を覚え、私たちがより逞しくしてくれたと実感しています。私たちの歩みはまだまだ続きます。これからも大分県協会の取り組みにどうぞ期待して頂き、ご参加頂ければ幸いです。

大会長 脇坂 健史

会場の様子

一致団結「名札入」



どこでもドア 47都道府県ポスター



総合受付

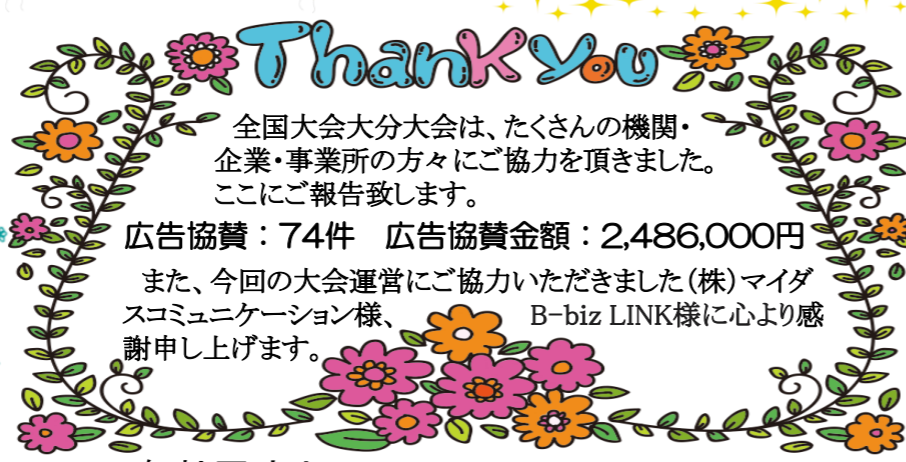


実行委員・運営委員の雄姿



みんなであつた！ 一致団結して 頑張りました！

参加者数 1,131名
クラウドファンディング 50万円 目標達成!



全国大会大分大会は、たくさんの機関・企業・事業所の方々にご協力を頂きました。ここに報告致します。

広告協賛：74件 広告協賛金額：2,486,000円

また、今回の大会運営にご協力いただきました(株)マイダスコミュニケーション様、B-biz LINK様に心より感謝申し上げます。

一般社団法人
大分県医療ソーシャルワーカー協会 事務局
〒879-2401 大分県津久見市千怒6011番地
(津久見市医師会立 津久見中央病院内)
TEL:0972-82-1123(代表)
FAX:0972-82-8411(代表)
E-mail: info@oita-msw.com
URL: https://oita-msw.com



まずはなによりも、令和6年度の全国大会の開催に際し、皆さまのご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

本大会は、各地から多くの仲間たちが集い、貴重な意見交換の場、体験の共有の場、そして、絆を深める場となりました。心より感謝申し上げます。

大分県医療ソーシャルワーカー協会では、これまでの大会とは多少？趣を変え、賛否両論あることを覚悟しつつ『ソーシャルワーカーが、医療福祉の枠を超えて、未来を想像して創造していく世界を考えること』をイメージして、チャレンジングな内容にこだわりました。世界で活躍する若手ジャーナリスト、ニューテクノロジー、宇宙産業、モビリティカンパニーなど、これまでソーシャルワーカーとは交わりがあまり無い分野と、ソーシャルワークを掛け合わせることは、そのプロセス、そして結果ともに、とても興味深いものでした。また、音楽や映像の若きアーティストの活躍や、再起に向けて力を尽くす著名人などの存在も光りました。

そして、この大会が活力溢れて、楽しく、ホスピタリズムに包まれたのは、なによりもスタッフとして縦横無尽に活躍した大分県の医療ソーシャルワーカーたちの力があつたからです。

改めて、みなさんの存在こそが、大分大会だったと断言します。本当に素晴らしいものでした。本当に、夢のような、素晴らしい時間と空間をみなさんと共有できたこと、嬉しくおもいます。どれだけ言葉を尽くしても足りることはありませんが、ひとまず、ここで一区切りとしたいと思います。

令和6年度の全国大会に関われたこと、一生の記憶とさせていただきます。ありがとうございました。

実行委員長 今尾 顕太郎

大会の始まりは
音楽とともに

石井晃平さんシークレットコンサート

6月15日(土)開幕となった全国大会は、大会メインテーマ曲を作曲してくれた高校生石井晃平さんのコンサートから始まりました。有名なクラシック曲の演奏から、素敵なテーマ曲まで数曲演奏して下さい、2日間の大会成功を祈るような時間が流れました。石井さんの曲は協会Facebookの大会動画にも活用していますので、ぜひお聴き下さい。



開
会
式

開会式では、佐藤樹一郎大分県知事にご臨席頂き、ご挨拶を頂きました。また、脇坂大会長も大会開催の喜びを噛みしめながらの挨拶となりました。

基調講演



映像の眼差し～見て、見られて生きてゆく～
小西遊馬先生
「人を眼差し」という行為がMSWと似ている、との言葉が印象的でした。

鼎談



既存フレームをBreakthrough
近未来のソーシャルワークとは

胡内敦司先生・川村涼太郎先生
こども家庭SWへの期待、当事者からの言葉が響いたのではないのでしょうか。

シンポジウム



「身寄りのない人」が対象ではなく、個人をスタンダードに身元保証問題を考える

熊田均先生・林祐介先生・沢村香苗先生
会場満員御礼で、関心の高さを目の当たりにしました。4名のシンポジストから未来図のヒントを得ることができました。

シンポジウム

ソーシャルワーカーの未来を考えたことがあるか？
何を大事にしながら、何を未来図として描いていくべきなのか？

遠藤亮平先生・田中大空先生
西山弥佳先生・有馬千世さん



特別講演



TOYOTAが想像(創造)する未来の環境と社会
今井田昌幸先生

医療福祉の発展に対する研究者の熱い思いを知ることができました。企業のイメージが変わった方も多かったと思います。

教育講演



がん・循環器病対策について
西嶋康浩先生・戸石輝先生

厚労省から会場に来て講演頂けるのは本当に久しぶりでした。それぞれの対策について、多職種が連携することの意味を改めて考えたのではないのでしょうか。

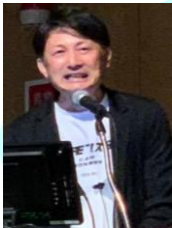
セミナー



ソーシャルワーカーのためのデータ活用セミナー～実践のデータ化を目指そう～

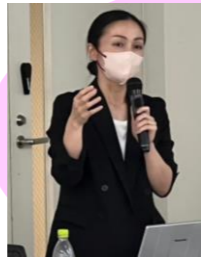
西岡大輔先生・西出真悟先生・原田とも子先生
ソーシャルワーク実践のために重要な着眼点の1つは、定量的なデータ分析とし、その取り組みが紹介されました。

シンポジウム



価値創りへの挑戦！
起業ソーシャルワーカーが見る近未来の可能性
田中大悟先生
他の講演では受講者としても積極的な質問をされていた田中先生。自身の体験もふまえ、熱い話が続きました。MSWとしての戦略・戦術について、改めて言語化することの大切さを考えさせられました。

ワークショップ



ソーシャルワーカーの思考過程を表在化しUP-DATEする
日和恭世先生
ソーシャルワーカーの思考過程を共有する場として、グループ内で活発な語りが行われていました。

分科会・ポスターセッション



演
者

36の演題発表が行われた今大会。大分県からは、大分大学医学部附属病院小野久美子さんが「透析中のがんターミナル期の患者の医療福祉課題」と題して発表されました。



また、第3分科会の座長は、楠元副会長(副大会長)が務めました。

ここまでが1日目でした。盛り沢山！

ワークショップ



リカバリーカフェ
アルコール体質判定の体験ブースも、リカバリーカフェも盛況でした。

2日目！ 記念講演

人生をあきらめない
アルコール依存症の回復とチャレンジ



山口達也先生
このスクリーンに山口先生が映り、会場と一緒にこの問題について考える時間となりました。

シンポジウム

次世代に医療ソーシャルワーカーのスピリッツを伝える教育のあり方～ソーシャルワーカーの業務マネジメントの視点から～
保正友子先生・北嶋晴彦先生・國吉安紀子先生・太田聡子先生



それぞれの体験・実践報告の中に、新人・後輩育成のヒントがたくさんありました。

シンポジウム

災害時に求められるソーシャルワークとは～能登半島地震におけるソーシャルワーク支援の現状・課題と今後(未来)への展望～
原田とも子先生・福井康江先生・石川県MSW協会・高村純子先生
会場は沢山の聴講者で、皆さん真剣な表情で聴かれました。



ワークショップ



認定医療ソーシャルワーカー及び認定社会福祉士の申請に向けて～ケースメソッドを用いた自身のSW実践の省察～
片岡靖子先生・名田部明子先生
郡章人先生・中野彩先生



大分県協会の方の受講も目立ったワークショップでした。

シンポジウム

宇宙産業の視点で考える、人間社会とウェルビーイング～歴史・現在・未来～
片山俊大先生・大分県宇宙開発振興班



宇宙港を進めている大分県とスペースポートジャパンの未来への動きにワクワクする時間でした。

シンポジウム

在宅医療分野におけるMSWの可能性
西出真悟先生・高橋勝先生・吉川晴子先生・齋藤慶子先生

4名のシンポジストから、在宅医療分野における取り組みや熱い思いを聴くことができたかと思えます。



シンポジウム

アバターでの誰一人取り残されないデジタル共生社会の実現～ロボット、メタバース、デジタルツイン活用での病気療養、障がいのある子どもの笑顔～
林充宏先生



アバターの可能性、コミュニケーション機会の提供など具体的な事例も紹介。

ワークショップ



緩和ケア・終末期医療における患者の意思決定支援について考える
上白木悦子先生
人生の最期を迎える時のその方の尊厳、受講者皆で考える時間となりました。